くらしの掲示板

新型コロナウイルス感染症の状況により中止や延期となる可能性があります。

NWECだより 女性教育情報センターテーマ展示「人生100年時代を考える」

男女共同参画および女性・家庭・家族に関する専門図書館「女性教育情報センター」では、四半期ごとにテーマを変えて展示を行っています。7月からは「人生100年時代を考える」がテーマです。日本は平均寿命が世界一、総人口に65歳以上の高齢者人口が占める割合（高齢化率）は29・1％の超高齢社会です。また75歳以上の女性人口100人に対する男性人口は65・2人と、女性が多数を占めます。長くなった人生をいかに過ごすか、よりよい生き方について考える資料を展示します。

ホームページでもオンライン展示をしていますので、ぜひご覧ください。

展示場所、来館については、電話等でお問合せください。

日 7月1日(金)～9月30日(金)
費 無料
問 国立女性教育会館女性教育情報センター
☎62－6195
E-mail infodiv@nwec.jp

自衛官募集のお知らせ

■自衛官候補生
応募資格 18歳以上33歳未満までの方（採用予定月の1日現在）
受付期間 7月29日(金)まで
試験日（いずれも指定された試験日に受験）
・一次試験（WEB試験）8月7日(日)～8日(月)いずれか1日
・二次試験（面接及び身体検査）8月20日(土)～22日(月)指定された1日
入隊時期
陸 令和4年 9月下旬予定
海 令和4年 10月上旬予定
空 令和4年 8月下旬予定

■航空学生
応募資格
海 18歳以上23歳未満までの方（高卒者【見込含】または高専3年修了者【見込含】）
空 18歳以上21歳未満までの方（高卒者【見込含】または高専3年修了者【見込含】）
受付期間 9月8日(木)まで
試験日
・一次 9月19日(月)
・二次 10月15日(土)～20日(木)
・三次試験 別次します。
合格発表
・一次 10月7日(金)
・二次（海）11月9日(水)（空）11月4日(金)
・最終 令和5年1月17日(火)

問 自衛隊埼玉地方協力本部熊谷地域事務所担当 満木
☎048－522－4855

はら詳細ちこ

荒川図画コンクール作品募集

河川美化、愛護の意識や河川への意識を啓発することを目的に荒川の風景画を募集します。

入賞者には応募していただいた絵をスタンドにして贈呈しますのでぜひご応募下さい。

対 小学生
応募期間 7月1日(金)～9月15日(木)
題材 荒川流域の川やダムの風景
申 荒川上流河川事務所ホームページ「令和4年度荒川図画コンクール」ページをご覧ください。
問 荒川図画コンクール実行委員会事務局（荒川上流河川事務所調査課）
☎049－246－6360

がんワンストップ電話相談

埼玉県では、働くがん患者さんの治療と仕事の両立を支援するため、複数の専門職による相談会を開催します。

対 県内在住または在勤する就労中のがん患者の方（休職中の方も含む。）
日 18時15分～20時30分（最終受付20時）
7月12日(火)・26日(火)、8月8日(月)・25日(木)、9月6日(火)・29日(木)、10月11日(火)・27日(木)、11月7日(月)・24日(木)、12月8日(木)・20日(火)、1月10日(火)・23日(月)、2月7日(火)・21日(火)、3月2日(木)・17日(金)
費 無料
申 電話、メールまた県ホームページにて県疾病対策課へ事前にお申込みください。
☎048－830－3651
メール a3590-06@pref.saitama.lg.jp
問 埼玉県保健医療部疾病対策課

#町長うぶやきます

「自分の事は棚に上げ、、、」

我々は日々多くの方々と関わりながら生きている。その中には、人の嫌がるような事をさりげなく率先して行い、決して恩に着せない方がいる。その様な方は、謙虚だけれども生き生きとされている。一方、常に社会や他人に対し不平不満を口にされる方もいる。物事に対し批判の目、自分の意見を持つことは大切である。しかし、自分自身のことを全く顧みず、自分だけが正しいかの様にいつも目を三角にしているのはいかがなものか。意外に穏やかな人の方が、いざという時にはその思いや考えを適切な方法で明確に表現でき、しかも幸せそうに見える。

私も至らぬ自分に嫌気がさすことがよくありますが、素敵な先輩たちの姿を胸に、自己成長に努めてまいります。

教育相談室

回想・子育て中の数場面

二人の娘と関わってきた拙宅。現在は共に結婚し一段落した拙宅の子育てをいくつか振り返ってみたいと思います。

◆「物を欲する」のはどの子にも共通することでしょう。我が子もその時々で「○○が欲しい」と要求してきたことが思い出されます。小さい頃は安価なものの要求が多かったようです。それでも即求めに応じないようにしてきました。安易な買い与えの積み重ねは「耐性」（我慢する心）にもよからぬ影響があるように思えたからです。そこで「3か月後に欲しかったら考える」と拙宅では決めて取り組むことにしました。「この日に、まだ欲しかったら考えようね」と話してきました。すると「3か月」まで欲望が継続していることは我が子にはほとんどなく、物への関心は移っていったようでした。また、「○○が欲しい」ときに「みんなが持っている」を加え迫ってくるときもありました。「みんなが」と言われると親は弱いものです。しかし、実際はそうではないケースが全てでした。「みんなって誰？」と問い返すと全員でない実情がわかります。子供の揺さぶりに慌てず冷静に対応していくことが必要かもしれません。また、物によっては経済的事情や教育的価値等で「我が家はNG」と言い切ることも大切だと思います。

◆妻の体調がかなり思わしくない夕方のことです。ふだん食事を作ることになっていた妻の一大事に娘たちが動き出しました。長女・小学校低学年、二女・幼稚園児。冷蔵庫から物を取り出す、まな板と包丁で何やら切り刻む、フライパンや鍋を用意する、調味料も使っていく……そして時間を費やした共同作品は完成しました。母親と共に料理をすることが多くない幼子の拙いながらも真剣な頑張り。一番の驚きは「それぞれの動きが母親と重なって見えた」ことでした。「子供は親の言うようにはならないが親のするようになる」教育界でよく言われてきた格言がこのときほど実感できたことはなかったように思います。改めて「子供は親の背中で育つ」ことを肝に銘じた一場面でした。

◆どの家庭にもルールがあると思います。拙宅も同様でその一つに「門限厳守」がありました。高校生のときでした。迫りくる「時」と静寂な空間。しかし過去一度もなかったその時刻は過ぎました。夫婦で待ち続けた一時間後、玄関のドアは開きました。静かに問うと彼女なりの理由が返ってきました。部活を辞めたことも背景にあったかもしれません。しかし「門限破り」は事実です。「携帯電話は預かる。そういう約束だったな。」そう話すと涙を流しながら渡そうとした瞬間、自ら携帯電話を壊した娘。重い空気が流れていました。中学生の頃から父親との会話に距離を置いていた彼女。その距離はもう手の届かない場所までいってしまった感じすらしました。しかし「この約束から逃げること」の方が子供の将来にとって良くないとの思いがあっての決断でした。数か月後、神妙な面持ちの彼女が私のところに来ました。そして、門限破りへの初めての謝罪、加えて携帯電話購入の懇願。十分なペナルティ期間だったと判断し、迷わず娘の求めに応じました。その後も決して会話の多くない父娘の関係は続きました。しかし、年を重ねるごとに会話は少しずつ増えていきました。順調な親子関係で進むのが理想かもしれません。それはなかなか困難なことだと思います。親が「壁」となって立ちはだかることもときには必要な気がします。20代半ばの頃、門限破りの娘は母にこんな話をしたそうです。「普通の話はお母さんにするけれど、大事な相談はお父さんにする。」

「教育にベストはない」と思います。その時々で「ベターなもの（よりよいもの）」を判断し、伝えていくのが親なのかもしれません。

問合せ 教育委員会事務局
☎62－0823